

平成27年緑化推進運動功労者 内閣総理大臣表彰受賞者・功績概要

[個人]

濱須 篤義	(福島県南相馬市)
杉山 幸	(徳島県三好市)

[団体]

「緑いっぱい市民運動」世話人会	(北海道釧路市)
那須塩原市立東原小学校	(栃木県那須塩原市)
川場村	(群馬県利根郡川場村)
花の会・つるぎ	(石川県白山市)
高森町	(長野県下伊那郡高森町)
明光化成工業株式会社 明智工場	(岐阜県恵那市)
市立御前崎総合病院 花の会	(静岡県御前崎市)
乙川を美しくする会	(愛知県岡崎市)
三朝温泉かじか蛙保存研究会	(鳥取県東伯郡三朝町)
熊本市立帯山中学校	(熊本県熊本市)
実生の森実行委員会	(熊本県水俣市)

[団 体]

「^{みどり}緑いっぱい^{しみんうんどう}市民運動^{せわにんかい}」世話人会

所 在 地 北海道釧路市
代 表 者 会長 ^{はまき}濱木 ^{よしまさ}義雅

<功績の概要>

同会は、昭和46年の設立以来、一貫して市民主導の緑化活動において中心的な役割を担うとともに、自治体が行う緑化推進事業等の施策の実施においても共催・協力を行っている。

市民植樹祭、花壇コンクール、園芸相談、公園花壇の植栽など、これまでの事業を積極的に継続する一方で、近年は、啓発事業に力を入れ、平成24年の国土交通大臣表彰以降は、市内各所で活動するサクラ守(現在5団体)の発足及び活動への支援を行い、特に北の桜に的を絞った都市景観形成を目指し、息の長い活動を積極的に行っている。また、関連事業として、剪定講習会、専門家を講師に招いた講演会、市民シンポジウムなどを実施している。

そのほか、平成25年には、北海道のフラワーマスターに認定されている市民からなる団体の設立において中心的役割を果たし、その後も、色彩講習会やアレンジ技術講習会を開催し、個人の技能の研鑽を支援するとともに、まちづくりにおける市民協働の推進に大きな役割を果たしている。

[団 体]

はな かい
花の会・つるぎ

所 在 地 石川県白山市
代 表 者 会長 おおし けんぞう
大橋 憲三

<功績の概要>

白山市(旧鶴来町^{つるぎまち})では、昭和40年代前半より、各地区の青年団や小学校において独自に花づくりを行ってきたが、平成元年、全町に花づくりが普及することを目的として、花いっぱい運動推進委員会を設立した。各地区に推進委員を委嘱し、「花づくりは人づくり 人づくりはまちづくり」をモットーに、国道沿いや公共の建物・広場などの花壇において組織的な花づくり活動が始動した。

昭和63年に林地区が公民館事業として国道157号沿いに花壇を設置後、平成3年の石川国体を機に町民参加となり花いっぱい運動のシンボルとなっている。毎年行われる国道花壇一斉定植時には、町民約200名が自主的に参加して、サルビア、カンナ、マリーゴールド等を定植している。現在、国道花壇「フラワーロード鶴来(R157)」は、毎年6月の第一日曜日は「国道花壇の一斉定植」、第三日曜日は「全町フラワーデー」として定着し、子供会、壮年会、老人会、町会や公民館、行政、企業など多くの市民ボランティアの方々の協力を得て実施している。

さらに、平成26年6月には、東日本大震災で被災した岩手県陸前高田市で同様の取組を行っている団体「フラワーロード陸前高田」を訪ね、白山市から持参した苗を協働で植えて花壇の再生に協力するなど、活動の幅を広げている。

[団 体]

おとがわ うつく かい
乙川を美しくする会

所 在 地 愛知県岡崎市

代 表 者 会長 戸松 久

<功績の概要>

乙川は、竜泉寺川、山綱川など複数の河川と合流しながら岡崎市域を東から西へ横断し、矢作川に合流する一級河川である。岡崎市の水道水の40%強を取水しており、農業用水、工業用水としても市民にとって非常に重要な水源となっている。

同会は乙川の中流域及びその支流の住民によって構成され、草刈りや河川パトロール等の活動を恒常的に行っている。

同会による草刈りやごみ拾い等の美化活動は、1年間で合計40回以上行われており、河川美化のみならず参加者の環境美化意識の啓発にも大きな成果を上げている。

それらの地道な活動によって地域住民による乙川及びその支流の環境保全や親水性の向上が実現しており、また地元のホタル保存会や漁業協同組合の活動を側面から支援する体制が確立されている。

また、近年問題となっている流域の竹害についても積極的に取り組んでいる。具体的には、竹粉碎機を使って伐採した竹の処理を行う等、竹害に対する有効な対策方法を模索している。

[団 体]

み さ さ お ん せ ん が え る ほ ぞ ん け ん き ゅう か い
三朝温泉かじか蛙保存研究会

所 在 地 鳥取県東伯郡三朝町

代 表 者 会長 もんぎ 門木 みつあき 光明

<功績の概要>

同研究会は、昭和54年に「かじか蛙の声を聞く会」として発足以来、かじか蛙の保護活動に加え、多くの生命を育む清流・三徳川を次世代に引き継ぐことを願い、河川や森林を守る活動に取り組み、水環境及び森林の保全に大きく貢献している。

活動の中でも、平成8年から現在まで19年間も続いている三徳川源流地域(中津、高橋、俵原)での広葉樹の植樹活動(延べ参加人員1,000人以上)は、かじか蛙の生息環境の整備のみならず、森林の公益的機能の一つである水源涵養等に大きく寄与している。

また、「かじか蛙サミット」(平成7年、参加者200名)や「森と川と海のフォーラム」(平成14年、参加者250名)を開催するなど県内外の参加者に対し、かじか蛙や清流を守る必要性及び自然生態系を守り育てることの大切さを訴え続けている。

さらに、平成4年以降、毎年夏には「かじかの声を聞く夕べ」を数回開催し、周辺の三朝温泉の宿泊者をはじめ、地元住民に自然の大切さを考える機会を提供し、水環境や自然生態系の保全への意識向上に貢献している。